

# **XL8**

**LIVE PERFORMANCE SYSTEM**

## An Introduction



## Introduction: ライブミキシングの新しいスタンダード

[**Revolutionary** – rèvilú:qinèri 副詞/形容詞

: 革命的な; 著しく新しい、若しくは急進的な変化の発表]

XL8 ライブ・パフォーマンス・システムは、まさに革命的で、マイダスがデジタルミキシングの領域に踏み入るための先駆者となりました。しかしながら、これはただのデジタルコンソールのひとつではありません。XL8 は比類のないデザインに模範となるサウンド・クオリティ、柔軟性、信頼性を持ちながら、容易でわかりやすいコントロールサーフェスになっています。XL8 はデジタルミキシングの新しい世代の先駆者であり、オープン・アーキテクチャー、クロス-プラットフォーム、統合したサウンドコントロール、分配システムの機能を有し、オーディオだけでなくライブパフォーマンスに求められる様々な要素を単一で、直感的に操作できるコントロールセンターに呼び出すことができます。

伝統的なマイダスのオーディオ・クオリティと卓越した信頼性を保ちながら、XL8 はさらに、世界のサウンドエンジニアが選んだNo.1 アナログコンソールの地位を確立しているマイダスのパフォーマンスをさらに進歩させました。XL8 は新世代のネットワークシステムの典型であり、マイク、アンプそしてスピーカーだけでオーディオシステムが構築できるようになっています。

XL8 のオープン・アーキテクチャーは、サードパーティのハードウェアとソフトウェアの両方を、“Plug-ins” を含めて簡単にシステム統合できるようになっています。最速のハイスピード・ネットワーク技術は、XL8 が伝統的なマイダス・ブランドバリューのサウンド・クオリティ、信頼性、ロングライフのすべてを保証し、数年の間は廃れることはありません。

### XL8 Live Performance System Overview

- ・ハードウェアまたはソフトウェアすべての単一障害に対する耐久性
- ・保証された、安定性のある Linux・オペレーション・システム
- ・デュアルリダンダント・マスター・コントロール・プロセッサ
- ・5つの個別ベイ・コントロール・プロセッサ
- ・24時間 365日グローバル・テレフォン・サポート (英語)
- ・サービスセンター: ミネアポリス (米国)、キッドミンスター (イギリス)、香港、シンガポール、そして、日本。
- ・頑丈なデザイン、高い耐久性



## XL8 Control Centre : 今までのやり方を変える必要はありません。

マイダスのデザインチームが考慮した結果、XL8 は丹念に、サウンド・デザイナーがミキシングすることに全うすることを前提にデザインされています。コントロールセンターは迅速に、簡単に、たとえデジタルコンソールをはじめて扱うエンジニアにも、容易に操作できるようになっています。

XL8 は、操作し易いようにデザインされているので、エンジニアは番号や、ページのレイヤーについて考える必要がなく、ユーザーは好みの色分けを行う事でチャンネルやグルーピングを簡単に識別することが可能です。この方法は、個性化したミキシング操作を可能にし、ハードウェアは決められた数の制限を受けません。このやり慣れた操作が XL8 の特徴で、エンジニアが今までの考え方を変えることなく、気軽にオペレーションができることを保証します。

5つの各コンソール・ベイは独立したハードウェア・モジュールで、隣のモジュールと独立しており、各々パワーサプライ、サーフェス・プロセッサー、GUI プロセッサーそしてスクリーンを持っています。唯一共通の接続は、一本のイーサネット・リンクを通じてシステムにリンクしていることです。

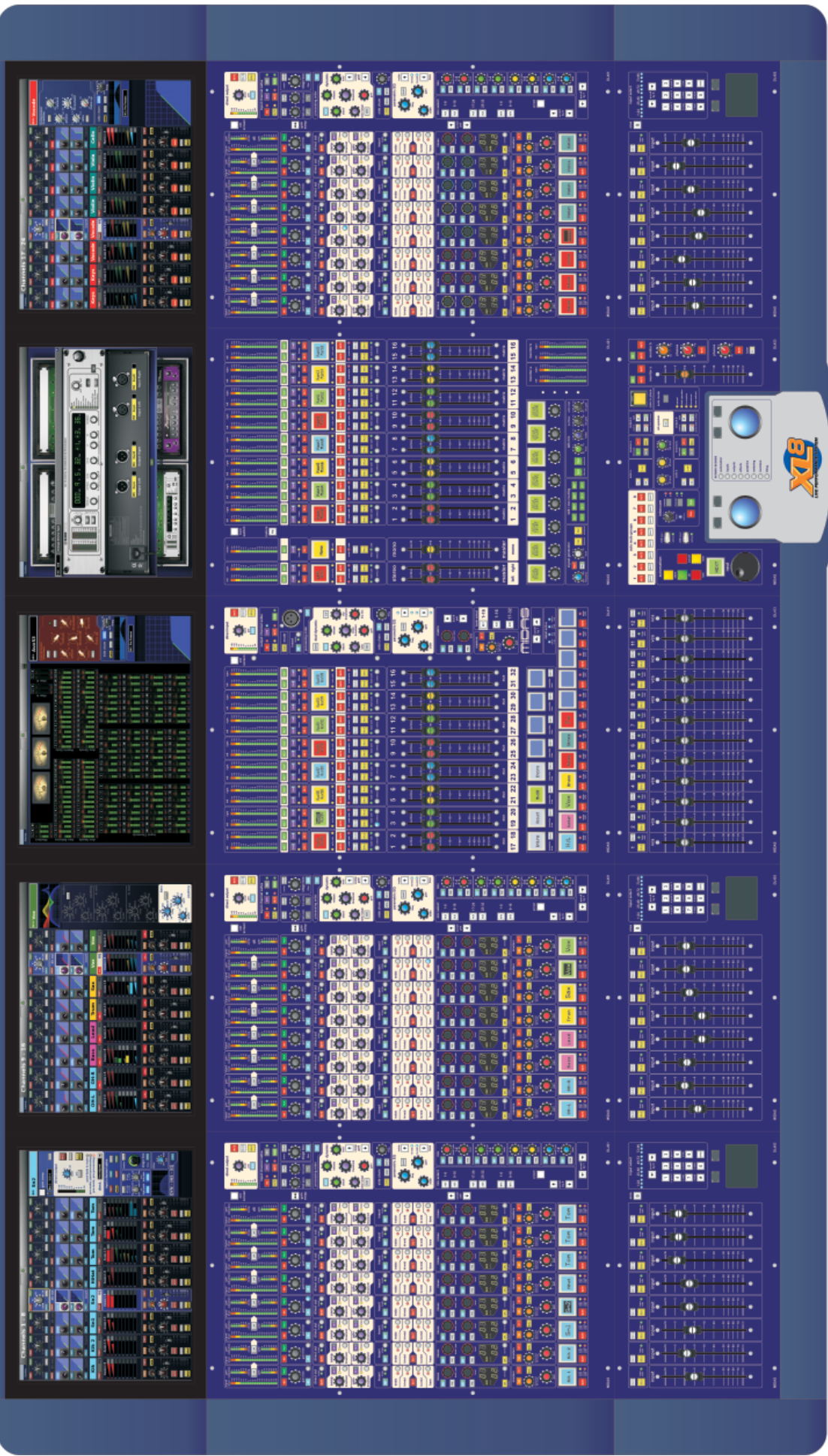
基本の 5 ベイ・コントロール・サーフェスは以下の 3 種類のモジュールの組み合わせで、合計 5 枚のモジュールで形成されています。

- ・ 3 x Input Module
- ・ 1 x Mix Module
- ・ 1 x Output Module

さらに、エンジニアが新しいテクノロジーに対する精密さに心配することなく、気楽に操作しながら、素晴らしいオーディオを作ることを可能にしていることに加えて、XL8 はライブ・ミキシングの世界における独自の機能も兼ね備えています。

### Control Centre Overview

- ・ アウトプットの専用メーター・フェーダー
- ・ ページごとのコントロールはその機能は変えない (例、ゲイン・ノブは常にゲイン・ノブで、決して周波数ノブに変わらない)
- ・ 非常に滑らかな、高精度ロータリー・コントロール
- ・ 独立した専用ハードウェア・リモート・コントロール Klark Teknik Rapid DN9331 により、搭載されたグラフィック EQ のコントロールが可能
- ・ 複数のインプット・エリアでのモジュラー・コントロール・サーフェス「容易に複数のオペレーションが可能」
- ・ 2台の DL461 オーディオ・システム・シグナル・ルーターに加え、さらに 2 台のルーターをコントロールセンターに搭載
- ・ 直射日光下でも視認性を確保した、DVI TFT ディスプレイ・スクリーン
- ・ 3つの外部 PC コントロールを可能にした KVM(キーボード、ビデオ、マウス)スイッチにより "Mac" または "その他 PC" コンピューターのリモート・コントロールがコントロールセンターより可能。
- ・ 白色 LED ライトを持ったコントロールセンター・サーフェス
- ・ 63 個の独立した 20 セグメント LED メーター
- ・ 個別に LED メーターを持つダイナミクスとダイレクト・アウト
- ・ 常に全てのメーターの監視が可能、マスター・ステータス・スクリーン
- ・ 簡単にハードウェア・ルーティングの監視が可能なマスターアウトプット



## XL8 Input Module:

インプットモジュールは8チャンネルで1組の“ファーストゾーン”で構成されており、オペレーターは“Must have now(直ちに呼び出し)”コントロール、1チャンネルの詳細表示を經由して、選択したチャンネルすべてのコントロール・パラメーターをディスプレイ・スクリーンで確認することが出来ます。スタンダードの「5-Bay」フレームは3つのインプットモジュールを搭載しており、複数のオペレーターによる同時操作を可能にしました。

### Input Module Overview

- ・3個の独立したマイダス・マイク・プリアンプがマイク・インプット毎に装備（例、FOH、モニター、放送）－「ゲインの共有はありません」
- ・アナログとデジタル・ゲイン・コントロールによる、プリアンプのパフォーマンスとチャンネルゲイン構成の最適化
- ・マイダスEQのサウンド・クオリティーと“コントロール・フィール（操作性）”
- ・マイダス・ダイナミックスを4種類から選択可能（ピンチージを含む）
- ・マイダス・クオリティーのインプットとアウトプットCMRR、そしてドライブ能力
- ・独自の感覚で馴染み易く構成されたE-ZoneレイアウトをEQに配置
- ・独自の感覚で馴染み易く構成されたD-Zoneレイアウトをダイナミックスに配置
- ・ファーストゾーンにより迅速にアクセス可能なキー・チャンネル・パラメーター
- ・8チャンネルのキー・データと1チャンネルの詳細データを各インプット・スクリーンに表示
- ・エリアAとエリアBの自由構成
- ・外付けビデオ・イン/アウト－オペレーターによる外付けコンピューター/ビデオを各インプット・スクリーンに表示し監視可能。

各96フル・ファンクションインプット・チャンネルは下記を装備：

- ・アナログとデジタルゲイン
- ・位相変換スイッチ
- ・ファンタム・パワー
- ・インプット・ディレイ
- ・可変可能なハイパスフィルター（2種類のフィルタスロープから選択可能）
- ・可変可能なローパスフィルター（2種類のフィルタスロープから選択可能）
- ・周波数センシングが可能なコンプレッサー（4種類のコンプレッサーから選択可能）
- ・周波数センシングが可能なノイズ・ゲート（外付けサイドチェーン使用可能）
- ・インサートポイント
- ・トレブルEQフィルタ（4種類のフィルタから選択可能）
- ・パラメトリック・ハイ・ミッドEQフィルタ
- ・パラメトリック・ロー・ミッドEQフィルタ
- ・ベースEQフィルタ（4種類のフィルタから選択可能）
- ・レベルコントロールを介して、32AUXミックス・バス、16マトリックスバス（FOHモード）または、48フォーワード・バック・ミキサー（ステージ・モニター・モード）のルーティング
- ・モノ・マスターバスへのルーティング
- ・パン・ポット（SISTM）
- ・ダイレクト・アウト



## XL8 Mix Module:

ミックスモジュールは、AUX マスター、ミックス・マスター、VCA マスター、POP グループ・セレクトボタン、ミックスグループ・セレクトボタン、ミックス・バス詳細パネルと表示画面があります。スタンダード「5-Bay」フレームには、1つのミックスモジュールがあります。

### Mix Module Overview

- ・ 12 VCA (Variable Control Association) グループ
- ・ 8 POP (population) グループ
- ・ 外部ビデオ入出力

各 32AUX・ミックス・バスは下記機能を装備：

- ・ サブ・グループ、AUX もしくはミックス・マイナス・モード
- ・ デュアル・モノもしくはステレオ・ベアー・モード
- ・ 6バンド・パラメトリック EQ
- ・ オプションでの 31 バンド G-EQ (P-EQ 置き換え)
- ・ 周波数センシングが可能なコンプレッサー (ソフト・クリップ・リミッター、5種類のコンプレッサーから選択可能)
- ・ インサートポイント
- ・ レベルコントロールを経由して、16 マトリックスバスのルーティング
- ・ バン・コントロールを経由して、レフト、ライトそしてモノ・マスター・バスへのルーティング
- ・ ダイレクト・インプット

各 16AUX・インプットは下記機能を装備：

- ・ インプットゲイン
- ・ 内部 FX、または外部プール・インプットからのソース選択可能
- ・ フェーダー
- ・ バン・ポット (SISTM)
- ・ レベルコントロールを経由して、16 マトリックスバスのルーティング
- ・ バン・コントロールを経由して、レフト、ライトそしてモノ・マスター・バスのルーティング

## XL8 Output Module:

アウトプット・モジュールは、メイン (マトリックス) ミックス・マスター、オートメーション・コントロール、デュアル・トラック・ボール・コントロール・パネル、スライド式キーボード、コミュニケーション・パネル、コントロールとディスプレイのモニター機能を搭載しています。KVM (キーボード、ビデオ、マウス) スイッチはこのベイに配置されていて、オペレーターが確認でき、コントロールサーフェイスから最大3台の外付けコンピューターを操作できるようになっています。スタンダード「5-Bay」フレームはアウトプット・モジュールを 1 台装備しています。

### Output Module Overview

- ・ 様々な公演内容に対応可能なシーン・オートメーション
- ・ スナップ・ショット・オートメーションはクロス・シーン・グローバル編集可能
- ・ システムは、新・旧ファームウェア・バージョンで書かれたショー・ファイルとも動作可能
- ・ 個別のオートメーション・スコープ・スクリーンをシーン・ストアーとリコールに採用
- ・ KVM (キーボード、ビデオ、マウス) スイッチをコントロールサーフェイスに搭載し、"MAC" あるいは "PC" を基としたサードパーティのソフトウェアを XL8 上で操作可能
- ・ 独立したデュアル・ソロ・システム
- ・ ユーザー・アサイン可能な 8 ユーザー・アサインナブル・コントロール

各 16 マトリックスバス：

- ・ 6 バンド・パラメトリック EQ
- ・ オプションでの 31 バンド G-EQ (P-EQ と置換え)
- ・ 5 モードの周波数センシングが可能なコンプレッサー (ソフト・ディップ・リミッター、外部サイドチェーン)
- ・ インサートポイント
- ・ ダイレクト・インプット
- ・ ミックス・マイナス・モード

各マスター・アウトプット・バス：

- ・ 6 バンド・パラメトリック EQ
- ・ オプションでの 31 バンド G-EQ (P-EQ と置換え)
- ・ 6 モードの周波数センシングが可能なコンプレッサー (ソフト・ディップ・リミッター、外部サイドチェーン)
- ・ インサートポイント
- ・ ダイレクト・インプット





Keys

Rhythm Lead Keys

N14 Rhythm

AS16 AuxS16

MIDAS

stereo mono

master master

matrix matrix

matrix matrix

matrix matrix

## XL8 Audio System Signal Processor (DL471)



DL471は1U、19インチ・ラックで、モジュラーDSPエンジンの一部を構成しています。独立したパワーサプライ、AES50とEthernetインターフェースを搭載し、さらに、デュアル超ハイ・スピード、特殊データ・ループをプロセッサからプロセッサ間のダイレクト通信に採用。各XL8システムは10台のDL471ユニットを搭載し、その内1台はリダンダント・スペアとして働きます。(N+1回復モデル)

### DSP Engine Overview

- ・10台のDL471をXL8ライブ・パフォーマンス・システムでは標準仕様
- ・新しい最小ハーモニック分裂・フィルタ
- ・クラシックXL4EQフィルタ
- ・RMS、ピーク、リニアそしてビンテージ・コンプレッサー・アルゴリズム
- ・16モノ・Klark TeknikグラフィックEQが搭載され、任意のアウトプットに連結可能、4台はモニター・セクションに配置
- ・16アサイン可能なステレオ・エフェクト・プロセッサが自由に下記から選択可能：
  - Klark Teknik DN780 reverb
  - Klark Teknik ステレオ・グラフィックEQ (デュアル・モノとして使用可)
  - ステレオ・ディレイ
  - ステレオ・フランジャー
  - ステレオ・フェイザー
  - オート・パン
  - コーラス

## XL8 Audio System Signal Router (DL461)



DL461は3U、19インチ・ラックで、ステージとコンソール間のリンクの役割をします、1本のCat6ケーブル(100メートル以下)、あるいは光ファイバー・リンク(最長500m)を使用することが出来ます。オーディオとコントロール接続を10台のDSPモジュールに行うと共に、10台すべてにデュアル・リダンダントAES50接続を行い、ローカルI/Oや、BNC、AES3コネクタにワード・クロックを提供するインターフェースを持ち、そしてEthernetデータを通すことが可能です。デュアル・リダンダントDL461はXL8システムに供給されます。

### Network Features

- ・2台のDL461をXL8ライブ・パフォーマンス・システムでは標準仕様
- ・統合されたオープン・アーキテクチャーAES50デジタル・オーディオ・ディストリビューション
- ・完全に二重化されたネットワークのリダンダント
- ・最長100mのデュアル・リダンダント接続をハードウェア間で採用(Cat-6ケーブル)；光ファイバー使用時は最長500m
- ・オートマチック・インテグラル・ディレイ・マネージメント・システム - オーディオ・アウトプットのタイムとフェイズの同期。
- ・柔軟性と拡張性のあるハードウェア
- ・Ethernet TCP/IPとUSBトンネリングをサードパーティ機器に供給可能

## XL8 Audio System Modular I/O (DL451)



DL451は3U、19インチ・ラックで、最大24オーディオ・インプットまたは24オーディオ・アウトプットを供給。ユーザー設定可能な3×8XLRフォーマットを採用し、アナログ・マイク/ライン・イン、アナログ・アウト、またはデジタル・イン/アウト(AES/EBU)の構成を自由に行う事が出来ます。

### DL451 Overview

- ・5台のDL451をXL8ライブ・パフォーマンス・システムでは標準仕様
- ・USB接続によるサードパーティ・データのUSBトンネリング

## XL8 Audio System Input Splitter (DL431)



DL431 は 6U、19 インチ・ラックで、24 マイク / ラインインプットを供給します。各インプットは 3 個の独立したプリアンプを搭載し、2 個は別々のリモートとローカルのゲイン・コントロールができ、3 個目のゲインは固定されています。ゲイン・コントロール可能な 2 個のプリアンプは、別の ADC に供給され、デジタル・オーディオはネットワークに送られます。4 個の独立した AES50 アウトプットは、デュアル・リダンダント・デジタル・オーディオを FOH と XL8 モニターシステムに供給しながら、サードパーティの AES50 デバイス（例、HD レコーダー）に DL461 ルーターを経由して、ルーティングする事が可能です。

2 個のバランス・アナログ・スプリット（各マイク・アンプのポストに組み込まれている）は後面に配置されていて、ゲインが固定された 3 番目のプリアンプはフロントパネル上から供給され、レコーディングやブロード・キャストなどの用途のためにトランスアイソレートされています。

### DL431 Overview

- ・ 4 台の DL431 を XL8 ライブ・パフォーマンス・システムでは標準仕様
- ・ 前面コントロールとローカル・モニターリング（単体で使用可）
- ・ インテグラル・ヘッドフォン・アンプ
- ・ デュアル Ethernet ポート（例、単体でのリモート・コントロールに）
- ・ 3 系統のアナログ出力を持ったマイク・スプリッター

## Klark Teknik DN9331 Helix Rapide



DN9331 は 6U、19 インチ・ラックで、モーター化させたフェーダー・リモート・コントロールを採用しています。XL8 のオンボード用グラフィック EQ を 1 本の Ethernet ケーブルで接続し、ソロ・トラッキング・システム (STS) を経由して、すべてオンボード・アサイン可能なグラフィック・イコライザーを簡単にリアル・タイムにコントロールすることができます。

### DN9331 Overview

- ・ 1 台の DN9331 を XL8 ライブ・パフォーマンス・システムには標準供給
- ・ 31 の 100mm モーター・フェーダーを採用
- ・ 4バンク、各 32 チャンネル
- ・ 4 つのユーザー設定が可能な GEQ グループ
- ・ グローバル・モード
- ・ ラックマウント、またはそのまま立てて使用可能
- ・ XL8 オンボードグラフィック EQ と Klark Teknik Helix digital EQ ユニットの同時コントロール

## XL8 Network Overview:

XL8のMidasNETネットワークはEthernetの物理的接続（Ethercon コネクタとCat5/6 ケーブル）で行われ、データ・プロトコルではありません。データ・プロトコルを使用すると、高水準で、しかも低レイテンシー（待ち時間）でオーディオ分配をするにはあまりにも遅すぎます。

すべてのデジタル・オーディオはAES50 プロトコル（Sony SuperMac として実装）と、Sony HyperMac の高能力システムを使用して送信されます。AES50は、オープン・アーキテクチャのプロトコルで、HyperMac はひとつの標準への候補となります。これらのプロトコルの優位点は、極めて低いレイテンシー（待ち時間）、強健なフィード・フォワード・エラー接続、そして進化したシステム・クロッキングです。このAES スタンドの使用は、シンプルで、そして、この接続方法を持つサードパーティのハードウェアと直結できることを意味しています。

MidasNETによる接続で、デジタル・オーディオ、コントロール・データ、そして、基本のEthernet 網、双方向送受信を1本のケーブルで行え、CAT5を“ローカル”（24チャンネル）接続、そして1本のCAT6（もしくは光ファイバー）でデジタル“スネーク”に対して使用します。“スネーク”は384チャンネルのアナログの複数ケーブルに相当します。

オーディオ、コントロール、クロックそしてサードパーティのEthernet データをたった一つのネットワークに合成する優位点は、XL8のハードウェア同士をRJ45、1本で連結できることです。

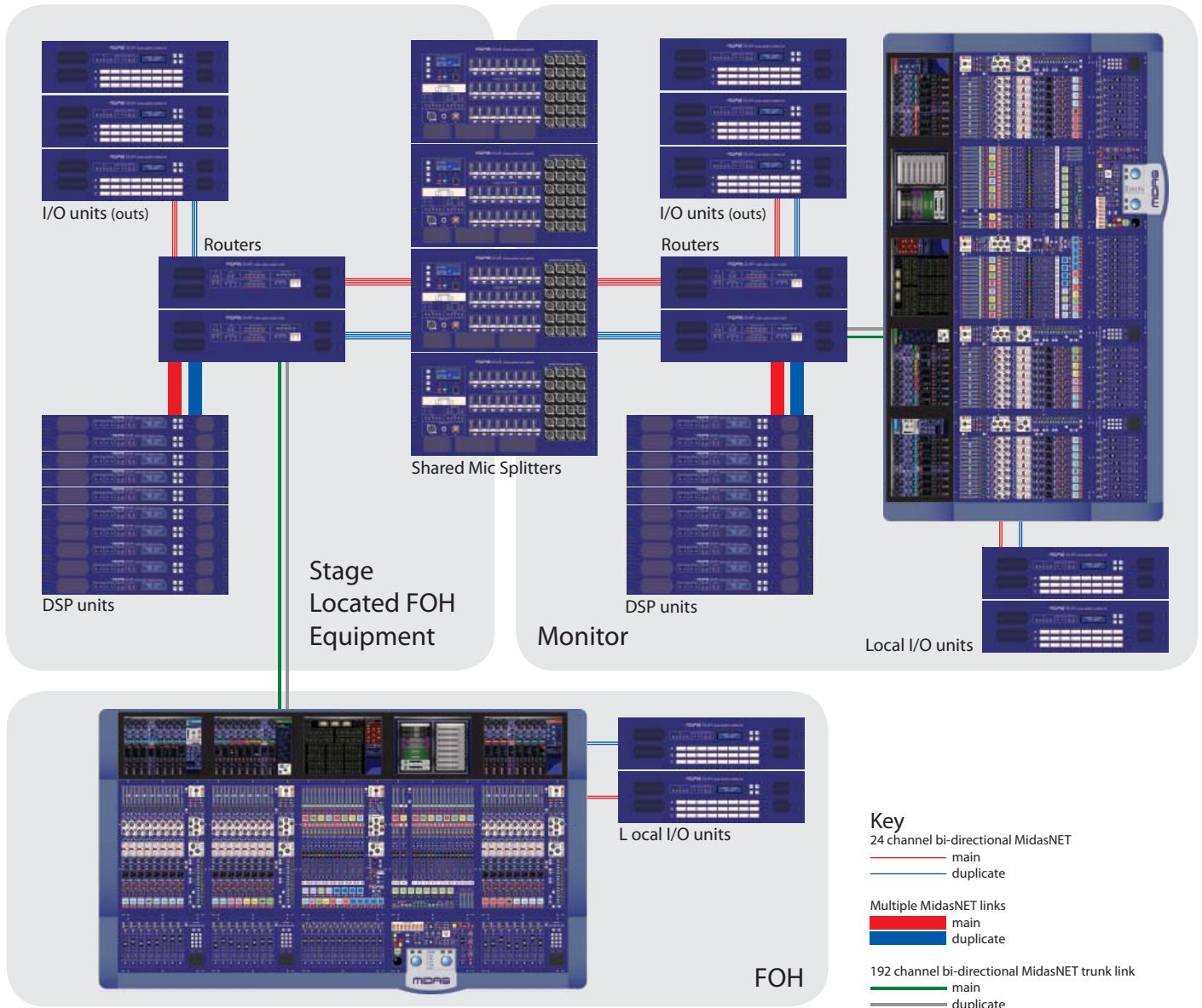
XL8はまたバックアップ機能として自己診断ソフトを起動させており、重要なハードウェアのパフォーマンス、プロセッサ温度、エラー修正レート、接続の整合性などを測定しているため、あらゆる異常事態は即座に、聴感上で問題が認識される前にユーザーに通知されます。

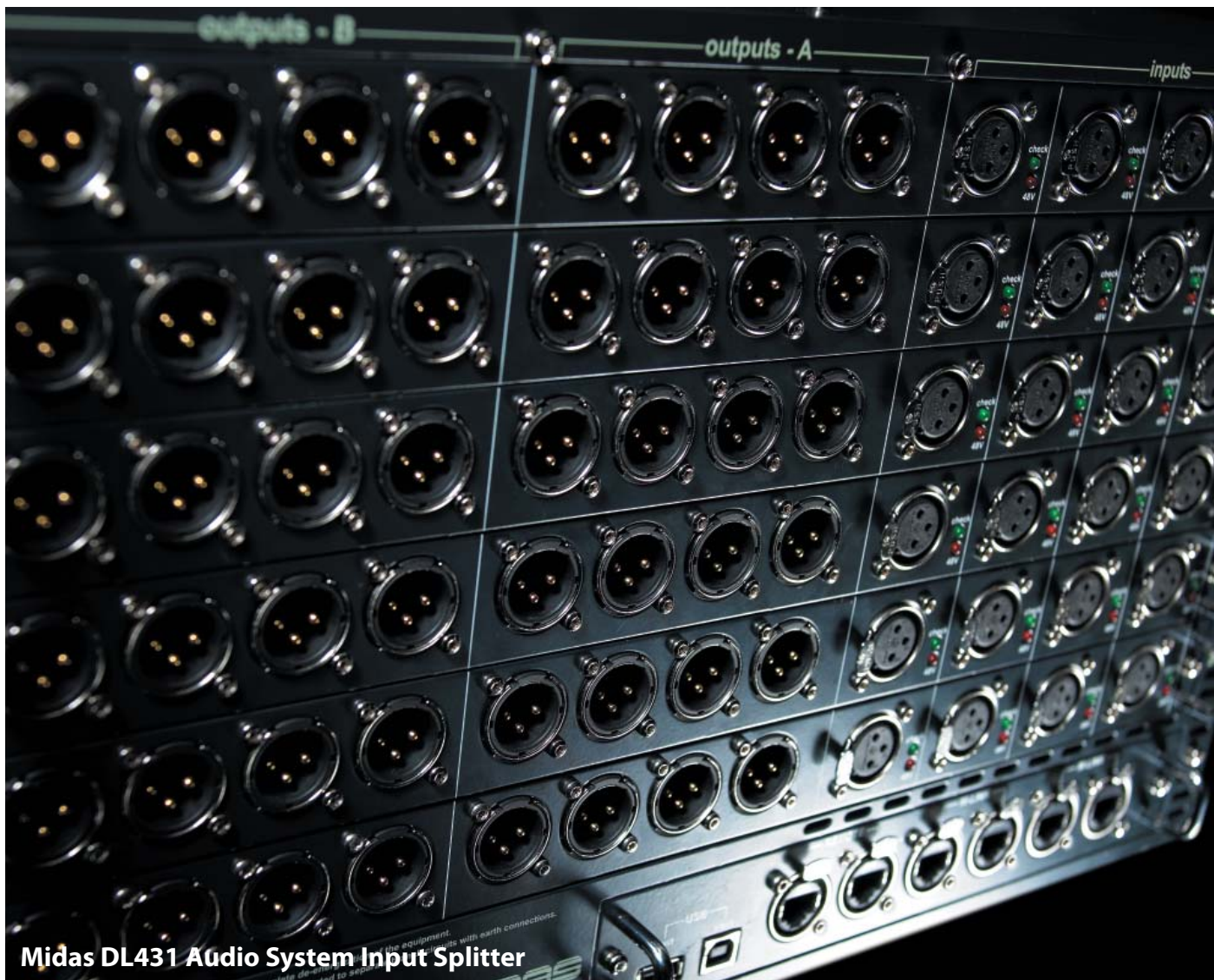
すべてのネットワーク接続は、完全なデュアル・リダンダンシーで構成されています。

XL8とMidasNETは96kHz サンプリング・レートで動作しており、各ネットワーク・リンクはたったの70  $\mu$ S レイテンシーです。典型的な全システム・レイテンシーは、約2mSです。包括的なディレイに対する管理機能は、インサートポイントにおける自動補正も含めて、提供されています。

## XL8 System Interconnections:

この系統図では、FOHとステージ・モニターのXL8セットアップが、メインとバックアップ・ネットワークを含めて、いかにコンパクトであるかを表しています。





**Midas DL431 Audio System Input Splitter**

## Statistics:

オーディオの実際の接続、オーディオ XLR 数の例として

### XLR 専用接続

- 1 × 96 マイク/ラインインプット、DL431 マイク・スプリッターを経由
- 2 × 96 アナログ・マイク・スプリット、各種ゲイン
- 1 × 96 トランスフォーマー・アイソレート型アナログ「ブロードキャスト」マイク・スプリット-ゲイン固定

### 構成設定可能オーディオ XLR 接続

XL8 には 5 台の DL451 I/O ユニットが供給され、FOH またはステージ上に自由に設置が可能です。各 DL451 は 3 種類のプラグ・イン・モジュールがあり、それぞれ 8 個の XLR を装備。3 種類のプラグ・イン・モジュールが現在供給可能です。

8 - アナログ・マイク/ライン・イン

8 - アナログ・アウト

8 - AES/EBU XLR (各モジュール当り、8 デジタルインプット、8 デジタルアウトプットを供給)

全オーディオ XLR 数は FOH スタンダードモデルの XL8 で 504 個です。

スタンダードの XL8 は合計 (構成変更可能) オーディオ接続数が 120 から 240 ですが、アナログとデジタル I/O の組み合わせによって変わります (ただし、構成変更できない DL 431 の 96 マイク・インプットは含みません)

### 典型的な構成は:

- 16 マイク/ライン・AUX インプット (基本で、合計 112 マイク・インプット提供)
- 32 Aux グループ・パス・アウトプット
- 16 マトリックス (メイン) アウトプット
- 1 ステレオ・メイン・アウトプット
- 1 モノ・メイン・アウトプット
- 2 ステレオ・ローカル・モニター・アウトプット

合計 71 オーディオ接続が可能で、追加の 169 (すべてデジタルにした場合) 又は、49 (すべてアナログの場合) オーディオ接続を除きます。これらはインサート・センド、インサート・リターン、ダイレクト・アウト、パス・ダイレクト・インプット、そしてサイドチェーン接続に使われます。

### 最大シングル接続可能数:

- 96 インプット・インサート・センド
- 96 インプット・インサート・リターン
- 96 インプット・コンプレッサー、外部サイドチェーン接続
- 96 インプット・ノイズ・ゲート、外部サイドチェーン接続
- 96 インプット・ダイレクト・アウトプット
- 51 ミックスバス・インサート・センド
- 51 ミックスバス・インサート・リターン
- 51 ミックスバス・ダイレクト・インプット
- 1 トークマイク・インプット

しかし、XL8 は、DL451 I/O ユニートを追加すると、基本接続よりさらに多く接続数を増やすことができます。9 台のスペア AES50 の接続が可能 (完全なリダンダント)。これは可能性として追加の 432 オーディオ接続が可能です (他製品の制限により変わる)。

これにより、最大 XLR 数は 1 システムの XL8 で、720 個となります。

# Midas XL8 Live Performance System: クイック・ミックスガイド

## ファーストゾーンと詳細パネルエリア

このインプットモジュールは2つのエリアに分けられ、“ファーストゾーン”（8チャンネル・ストリップで、インプット・ベイの左側）には、すべての“Must have now（直ちに呼び出し）”コントロールが配置されていて、チャンネル・ストリップの詳細（垂直方向に配置されたチャンネルで、インプット・ベイの右側）では、より総括的なコントロールができます。両エリアでの詳細は上部のスクリーンから提供され、インプットモジュールの画面を、キーボード上のスクロール・ボタンを使って、表示したいチャンネルが画面に表われるまでスクロールします。

## デジタルシグナルパッチとインプットルーティン

デジタルネットワークの構築が終わると、システムのデフォルト状態では、マイク・ボックス-1上のインプット-1はコントロールサーフェイス上のチャンネル-1にルーティングされます。これがチャンネル24まで続き、このポイントで、マイク・ボックス-2のインプット-1はチャンネル25にルーティングされて、同様にチャンネル48まで続きます。

## インプットゲインのセッティング

XL8には2つのインプットゲインがあり、ひとつはマイク・ボックスへのリモート・アナログ・ゲインで、もうひとつはデジタル・トリムがあります。両方ともコモン・ゲイン・ロータリーから設定でき、“ゲイン・スワップ”ボタンを使用して、アナログ・ゲインまたはデジタル・トリムを選択することが出来ます。アナログ・ゲインを選択し、インプット・レベルを適切な値に設定し、その設定を済ませた後、デジタル・トリムを選択し、適切なゲイン・ストラクチャーに設定します。ゲイン・ロータリーはその詳細のエリアで、選択肢を“スワップ”により常にファーストゾーンでコントロールする事が出来ます。

## マスターステレオアウトへのルーティング

ファーストゾーンの“イメージ”ロータリーの上にある“ステレオ”ボタンを押して、何もミュートされていないことと、マスター・フェーダーが上がっている事を確認するだけで、音を出す事が出来ます。

## インプットイコライザー (E-zone)

ファーストゾーンのボタンを使いEQセクションをインにします。適切なフィルタをファーストゾーンのナビゲーション・ボタン、あるいは、E-Zoneのボタン（詳細パネルに配置）を使って選択します。E-Zoneのフィルタ・コントロールを使い、EQを動作させ“モード”スイッチで、フィルタタイプをハイ/ロー・シェルビング・フィルタを個々に選択することが出来ます。様々なハイ/ロー・パス・フィルタは詳細エリアのマイク・ゲインの隣に位置し、それぞれ2種類のフィルタスロープから選択することが出来ます。EQの詳細はスクリーン上に表われ、フィルタのグラフィック表示は詳細エリア上に表われます。

## インプット・ダイナミクス・プロセッシング (D-Zone)

ダイナミクス・プロセッサーをファーストゾーン上のボタンを使ってスイッチを入れます。適切なプロセス（コンプまたはゲート）をファースト・ゾーン・ナビゲーション・ボタン、またはD-Zoneボタン（詳細パネルに配置）を使って選択することが出来ます。D-Zoneのコントロールを使い、プロセッシングを動作させます。モードスイッチは4種類のコンプレッサー・タイプから選択し、コンプとゲート両方に対する詳細は、ファースト・ゾーン・ハードウェア・メーター、ダッシュボード・メーター、そして該当するインプット上のスクリーンに表示されます。

## VCA ミキシングと POP グループ

VCA ミキシング方法は、エンジニアが卓まわりで作業しやすいように視認性を重視する方法が考慮され、チャンネルを順番に数字で記憶するような方法ではありません。したがって、XL8は操作し易いように、エンジニアが数字や、ページ、レイヤーについて考える必要がありません。ユーザーがシステムを操作しながら、自由に設定できる色やグルーピングによってチャンネルを判別できます。VCA -セントリック・ミキシングは、個々の好みに合わせたシステムにアプローチができ、ハードウェアが制限する数字範囲内の作業にとらわれません。この親しみやすく、容易に作業できるオペレーティング方法がこのコンソールの核心で、エンジニアが本来の思考を変えること無く、このXL8でミックスできることを保証することが出来ます。

## VCA (variable control association) アサイン

希望するVCAセレクト・ボタンを押し続けながら、チャンネル・セレクト・ボタンを押して、VCAをアサインします。VCAセレクト・ボタンを放すことで、選択が確定します。アサインしたインプット・チャンネルはVCAの（ユーザーが指定した）色をデフォルト（編集可能）として取り入れられます。

## POP (population) グループアサイン

ポピュレーション・グループは、ユーザーが構成したインプット・チャンネルのグループを、表示による確認と調整のために、好きなコントロールセンターのエリアにもってこることが出来るように作られました。希望するPOPグループ・セレクトボタンを押し続けながら、チャンネル・セレクト・ボタンを押して、POPグループをアサインします。POPセレクト・ボタンを放すことで、選択が確定します。アサインしたインプット・チャンネルはPOPグループ（ユーザー指定）の色をデフォルト（編集可能）として取り入れられます。

## AUX プリセットと設定

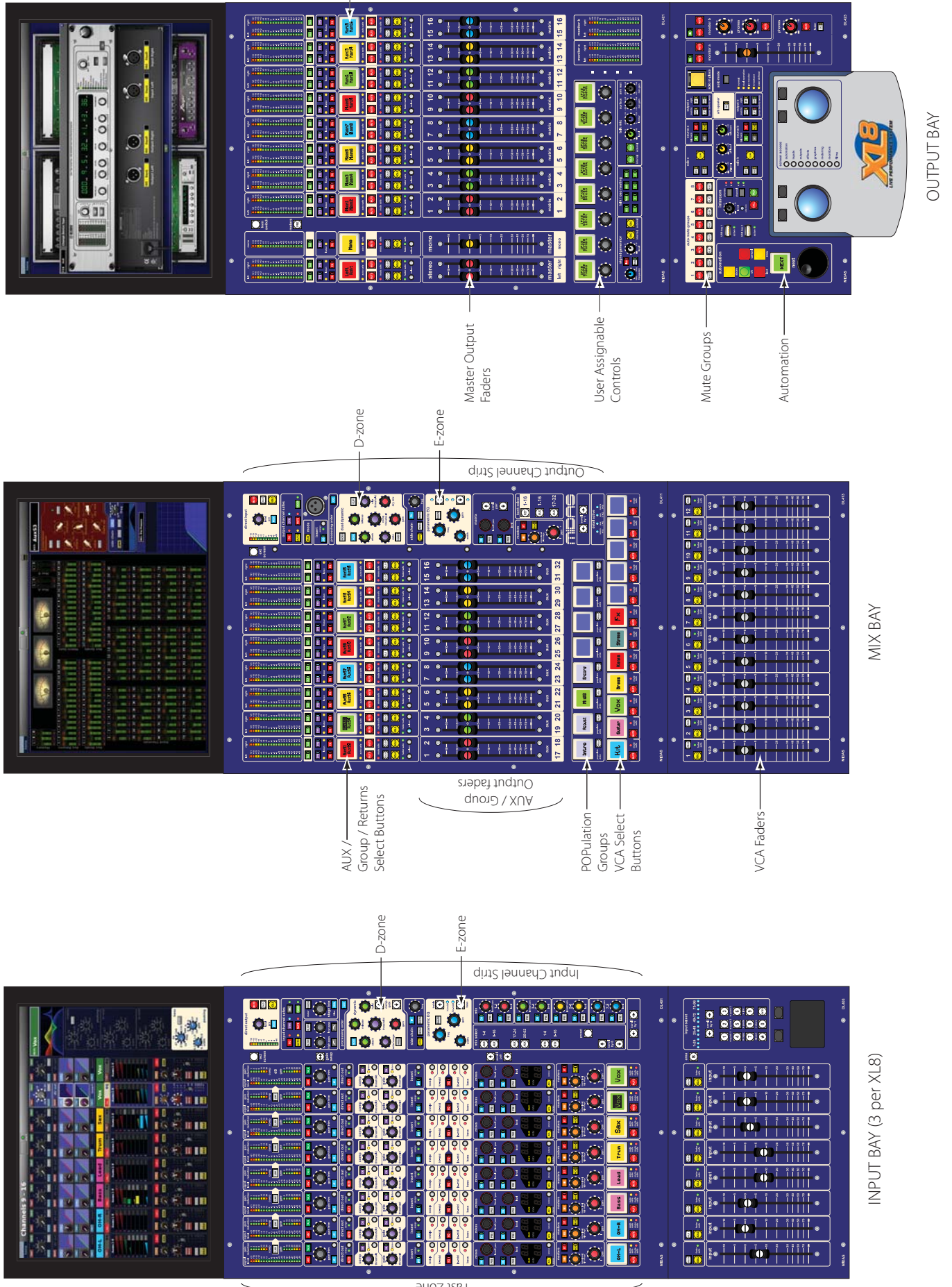
AUX プリセットはオペレーターが、スクリーン毎による、最も重要な2つのAUXまたは、各チャンネルに対するマトリクス・センドを“ロック”する事が出来ます。詳細パネルで“プリセット”ボタンを押し続けながら、AUXアサイン・エリアで“スクロール・ペアー”ボタンを使って、48ミックス・バス全てをスクロールすることが出来ます。各チャンネルで求めるミックスのペアーが表われたときに、ファーストゾーンでAUXセレクト・ボタンを押し、“プリセットボタン”を放すと選択が確定します。プリセットは、プリセットボタンが押されるとディスプレイに表示されます。ミックス・センド・ロータリー・コントロールは選択されたバスのデフォルト色で表示されます。

## FX ラック

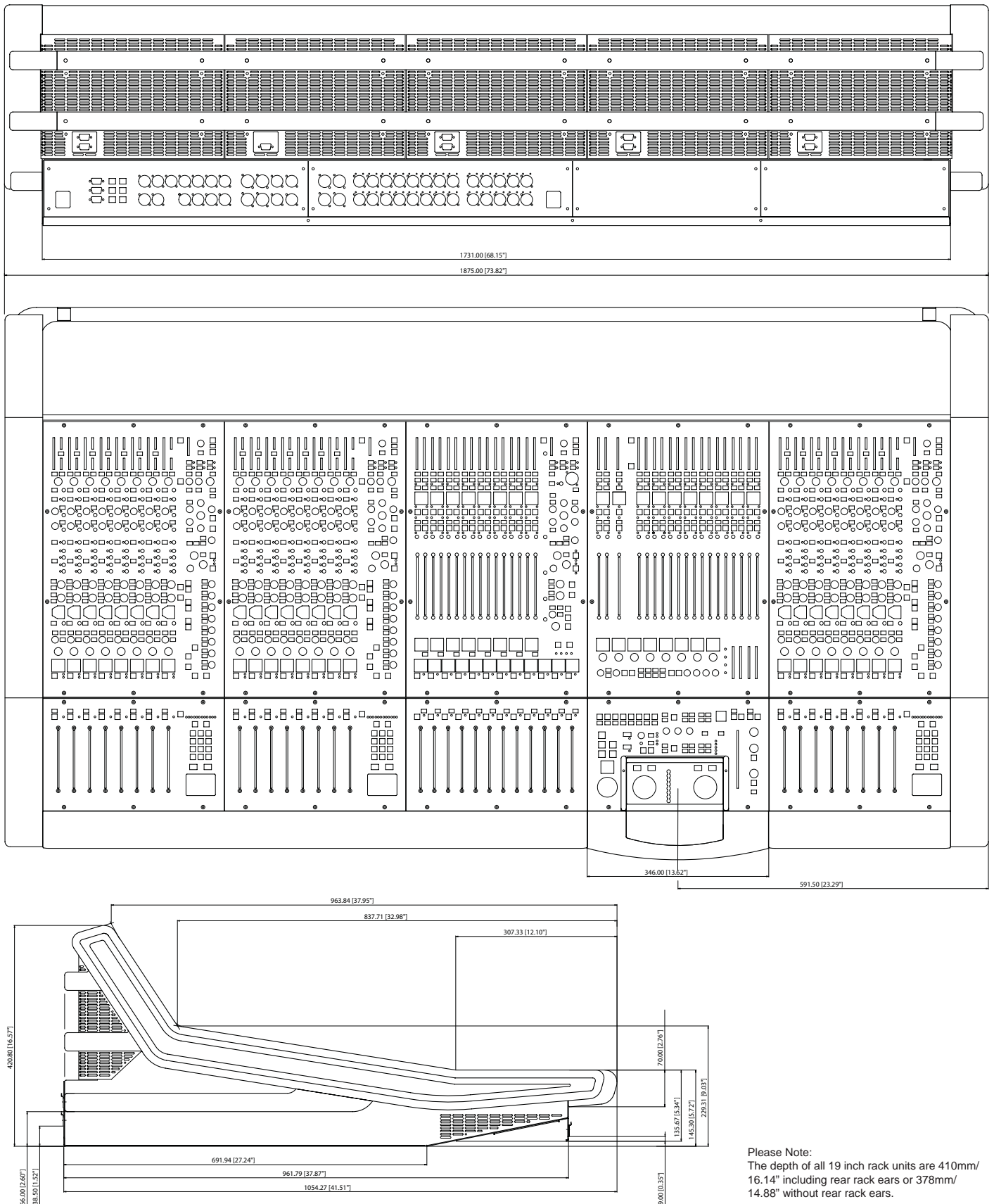
トラックボール・エリア（アウトプット・モジュール）で“エフェクト”ボタンを押すことで、前面スクリーンに空っぽの19インチ・ラックが表われます。右側のトラックボールを使用し、バンク・ラック・パネルのひとつをクリックし、そのバンク・ラック・パネルの一番上にある“Change device type”ボタンをクリックします。メニューからお好みのエフェクタ・プロセッサーを選択し、“OK”ボタンを押してエフェクトラックに取り入れます。エフェクトのフロントパネルをクリックして、編集するためのプロセッサーを開いて、パラメーター入力のためのマトリクス・アウトプット・フェーダーの下にあるボタンと、ロータリー・コントロールを使用します。創造的なプロセッシングを高めながら、最高のパフォーマンスを行うために、XL8のエフェクトラック以外のものは、検討する必要はありません。



# Quick mix guide key



# XL8 Control Centre Dimensions:



Please Note:  
 The depth of all 19 inch rack units are 410mm/  
 16.14" including rear rack ears or 378mm/  
 14.88" without rear rack ears.



Midas Consoles Japan Division   ダイヤルイン : 03-6661-3801  
 URL: <http://www.midasconsolesjapan.com>   Email: [info@midasconsolesjapan.com](mailto:info@midasconsolesjapan.com)

本 社 〒130-0011 東京都墨田区石原 4-35-12   TEL 03-6661-3825   FAX 03-6661-3826  
 大阪営業所 〒531-0072 大阪府大阪市北区豊崎 3-4-14-602   TEL 06-6359-7163   FAX 06-6359-7164  
 URL: <http://www.bestecaudio.com>   Email: [info@bestecaudio.com](mailto:info@bestecaudio.com)



仕様および外観は、改良のため予告なく変更する事があります